

経営比較分析表（令和元年度決算）

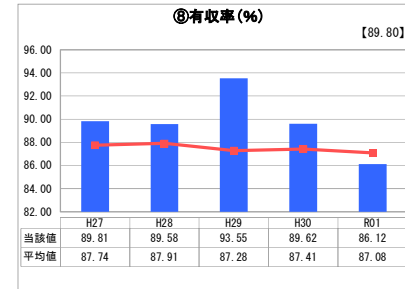
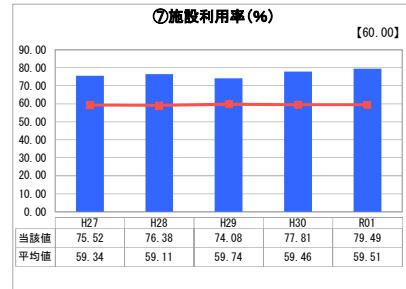
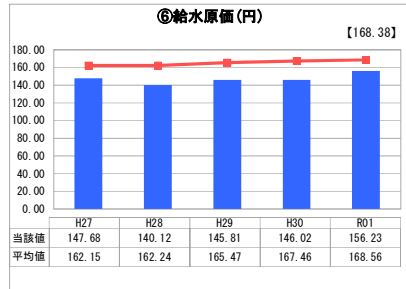
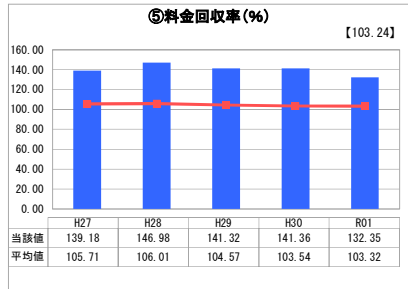
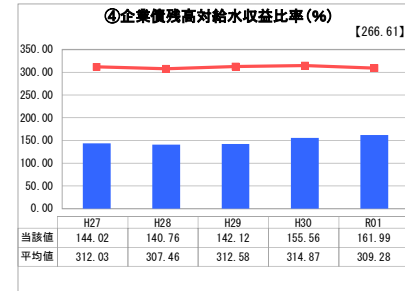
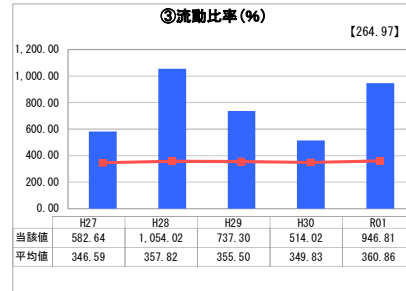
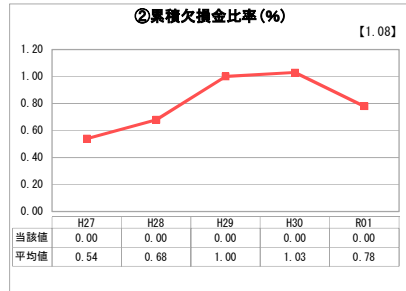
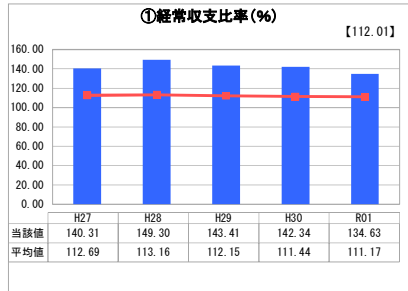
福岡県 行橋市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	82.80	76.85	4,020	

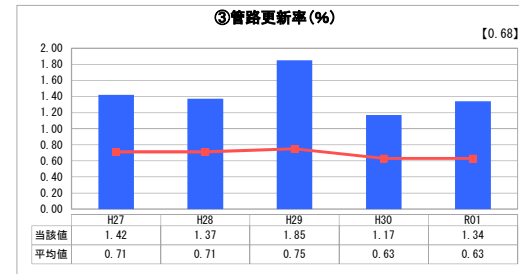
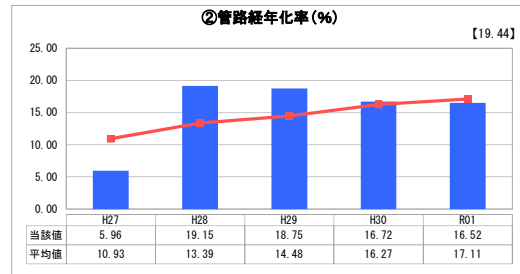
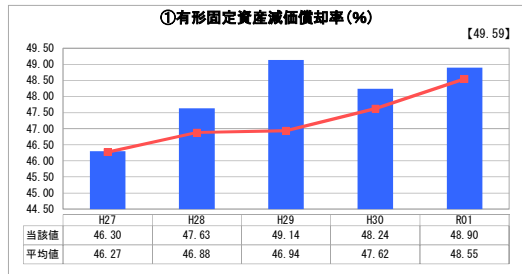
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
73,317	70.06	1,046.49
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
56,184	51.03	1,101.00

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

累積欠損金はなく、経常収支比率は100%を超えており、現時点においては健全な経営状況であると言えます。

また、全国・類似団体との比較においても適切な水準であると言えます。

次に施設の効率性を示す施設利用率は、全国・類似団体ともに平均を上回っており、比較的有効に施設が利用されていると思われます。

また、有収率においても、類似団体平均は上回っていますが、全国平均をわずかに下回っているため、今後もさらなる向上を目指していきます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体平均及び全国平均とほぼ同じ高い水準であり、施設の更新時期を迎えていると考えられます。

施設利用率が高い分、消耗が進んでいる施設もあり、更新が必要であると言えます。

管路経年率は、全国・類似団体の平均を若干下回っており適切な事業規模を勘案し、施設を計画的に更新していく必要があります。

全体総括

現在の経営状況は、比較的健全であると考えられます。

しかし、耐用年数を超えた埋設老朽管の布設替え、浄水場など老朽化した施設の更新など多額の費用が必要になると予想されます。

また、収入に関しては節水機器の普及や人口減少社会の到来による給水量の減少が想定されます。

今後は、さらなる有収率の向上を目指し、コスト削減、経費の抑制を図り、健全な経営状況の維持を目指していきます。